

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## 終わりの始まり？

### <ポイント>

- ◆先週金曜は、週末のユーロ圏財務相会合でのギリシャ支援合意への期待からか、米中長期債利回りの上昇と共に対主要通貨でドルが全般的に上昇する展開だった。
- ◆ドル/円は、東京時間は軟調に推移し一時 123.23 円へ軟化したが、欧米時間には米利回り上昇と共に反発、123.99 円の高値を付けた。
- ◆ユーロ/ドルは、ドル高の影響を受けて下落し、一時 1.1130 ドルの安値を付けた。
- ◆週末、ギリシャ政府が財政改革を巡り国民投票を(支援協議期限後である)7月5日に実施する方針を表明し、週末のユーロ圏財務相会合では国民投票への反対と6月末の対ギリシャ支援終了方針が示され、ギリシャでは市民の預金引出が活発化、そしてECBがギリシャの銀行への流動性支援の拡大を見送ったことを受け、ギリシャは本日から銀行休業・資本規制導入の実施を決定した。
- ◆本日は、想定外の展開で対IMF債務デフォルトリスクが一気に高まったため、リスク回避的な動きから既に早朝にドル/円は124円丁度手前から122.11円へ、ユーロは1.11ドル台後半から1.0955ドルへ各々急落、豪ドル/米ドルは0.76ドル台半ばから一時0.7587ドルへ小幅安で始まっている。
- ◆ドル/円は米利回り低下が継続したり株安が世界的に広がるようだと、続落し121円も視野に入る。
- ◆ユーロ/ドルは、ギリシャ資本規制導入とデフォルトリスクの高まりで素直に売り圧力を受けており、ドイツ10年債利回りの低下やスペイン、イタリアなど高債務国の国債への波及が大きくなれば、続落しそうだ。
- ◆週末、中国人民銀が0.25%の追加利下げと預金準備率の引下げを発表したが、急落している中国株価の下支えが主眼とみられ、金融市場全般のセンチメント押上げには不十分とみられる。

### 昨日までの世界：偽りの楽観

ドル/円は、東京時間は軟調に推移し一時 123.23 円へ軟化したが、欧米時間には週末のユーロ圏財務相会合でのギリシャ支援合意への期待からか、米中長期債利回りの上昇と共に対主要通貨でドルが全般的に上昇する展開となり、ドル/円も 123.99 円の高値を付けた。この間、米シガン大消費者信頼感指数は 96.1 と前月の 90.7、速報および市場予想の 94.6 を上回り、発表後の急上昇はなかったがドル下支え要因となった。

ユーロ/ドルも、米中長期債利回りの上昇とドル高の影響を受けたとみられ下落し、1.12 ドル丁度近辺から 1.11 ドル台半ばへ下落した。その後 1.12 ドル手前まで反発する局面もあったが、東京時間午前 0 時に向けて急反落し、一時 1.1130 ドルの安値を付けた。

ユーロ/円は、東京時間にドル/円の軟化と共に 138 円台半ばから一時 137.80 円の安値をつけた。もっ

とも、その後ドル/円の上昇と共に反発し、138.68 円の高値を付けたが、その後のユーロ/ドル急反落と共に再度 138 円丁度近辺へ反落した。引けにかけては 138 円台半ばへ小反発しているが、どちらかというとな軟調な展開となった。

豪ドル/米ドルはドル/円とほぼ逆方向の動きとなり、米中長期債利回りの低下を受けた米ドル高と共に 0.77ドル台前半から 0.7630ドルへ下落した。

豪ドル/円は、対米ドルでの円安よりも豪ドル安の方が大きかったことから、95 円台半ばから一時 94.56 円へ下落した。

### きょうの高慢な偏見: 終わりの始まり?

[今週の見通しはこちら\(6月26日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、週末にギリシャ政府が財政改革を巡り国民投票を(支援協議期限後である)7月5日に実施する方針を表明し、週末のユーロ圏財務相会合では国民投票への反対と6月末の対ギリシャ支援終了方針が示され、ギリシャでは市民の預金引出が活発化、そしてECBがギリシャの銀行への流動性支援の拡大を見送ったことを受け、ギリシャは本日から銀行休業・資本規制導入の実施を決定するなど、想定外の展開で対IMF債務デフォルトリスクが一気に高まったことから、リスク回避的な動きから、既に本日早朝からドル/円は124円丁度手前から122.11円へ下落して始まっている。米利回り低下が継続したり、株安が世界的に広がるようだと、続落し121円割れも視野に入る。

なお、これにより週明けのギリシャ経済・金融面での混乱を経て、7月5日の国民投票でEUが求める財政再建策を賛成、Tsipras 首相退陣・総選挙、財政再建受け入れという、市場からみると必要なプロセスへ向かう可能性も高まったのかもしれない。他国や他市場への混乱の波及度合いに関する不透明感が残る中、目先はリスク回避的な動きが続きそうだが、徐々にギリシャ危機後を睨んだ動きもみられてくるかもしれない。

ユーロ/ドルは、ギリシャのデフォルトリスクの高まりで素直に売り圧力を受けており、ドイツ10年債利回りの低下やスペイン、イタリアなど高債務国の国債への波及が大きくなれば続落しそうだ。

なお、ユーロ圏では明日のユーロ圏6月HICP発表を前に先行指標となるドイツ分が発表されるが、市場の関心は相対的に低そうだ。因みに、今回ドイツ分は前年比+0.4%と前月の+0.7%から鈍化しこれまでのV字型回復が早くも一服する見込みとなっており、どちらかといえば将来の追加緩和の必要性を意識させユーロ安要因だ。

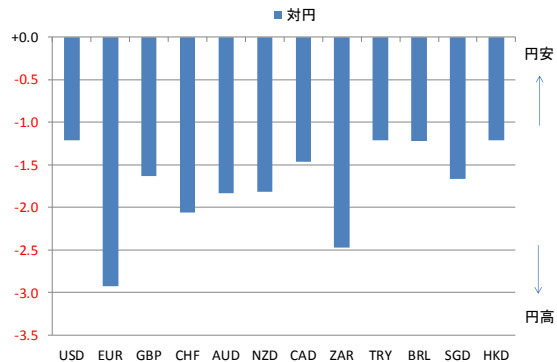
豪ドルは、豪ドル買いポジションが少ない中でドル/円やユーロほどの反応はみられていないが、ギリシャ情勢の世界景気への悪影響が嫌気されたためか小幅ながら売り圧力を受けており、国際商品価格が下落するようだと4月2日の直近安値(0.7533ドル)割れが視野に入ってくる。

なお、週末、中国人民銀が0.25%の追加利下げと預金準備率の引下げを発表したが、急落している中国株価の下支えが主眼とみられ、金融市場全般のセンチメント押上げや豪州からの輸出に関連する

鉄鉱石や石炭需要への影響は限定的とみられる。

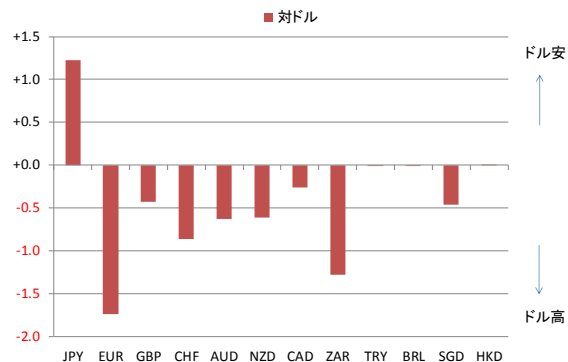
(本日早朝の動き・為替相場のみ)

主要通貨の対円相場(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

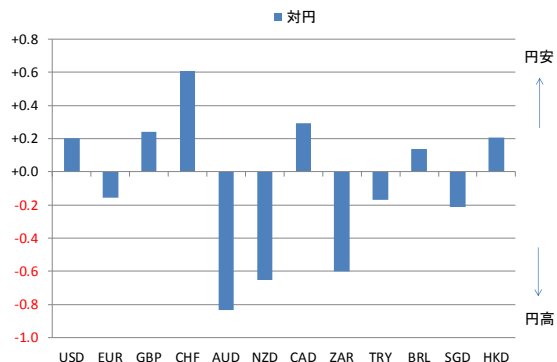
主要通貨の対ドル相場(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

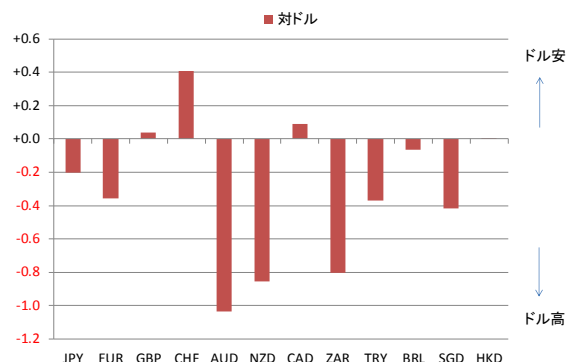
(先週金曜の動き)

主要通貨の対円相場(前日比%)



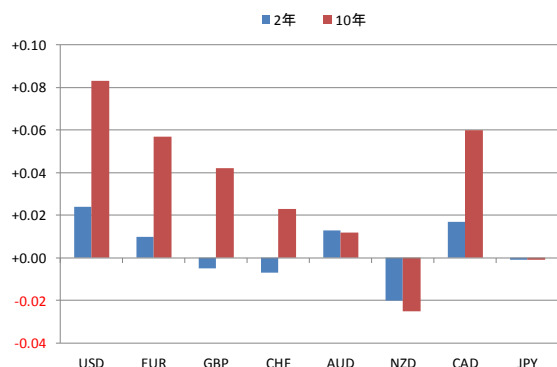
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



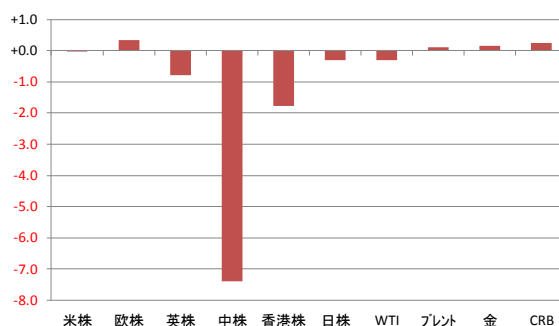
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会